大人のための予防接種の基礎知識

新型コロナウイルスのワクチン接種が始まっている今、
改めて予防接種について、考えてみましょう！！

■予防接種の必要性

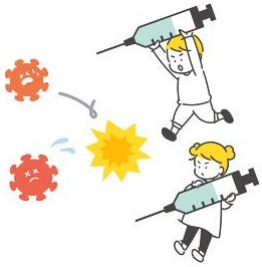
必要性①　予防接種を受けると、まず一人ひとりが病気を予防できます。予防接種を受けた個人が、病気にかからなくて済んだり、かかってしまった場合にも死亡や後遺症につながるような重症化を予防できたりします。

必要性②　周囲の人を守る効果があります。予防接種で感染症を予防すれば、感染した人がさらに周りにうつす可能性を減らせます。大人の場合、事前に病気を予防できれば、欠勤などによる周りへの負担や収入への影響、サポートする家族への負担なども防げます。

必要性③　社会機能を維持するためにも、予防接種は大切です。感染者が増えると、社会が立ち行かなくなるからです。例えば、新型コロナウイルス感染症のように、あまりに多くの人が同時に病気にかかってしまうと、通常の病院の機能が維持できなくなり、感染対策のために社会機能を制限する必要が生じれば、経済活動も低下します。そうなる前に、予防接種で生活を安全に維持することは、社会的責任としても大切です。

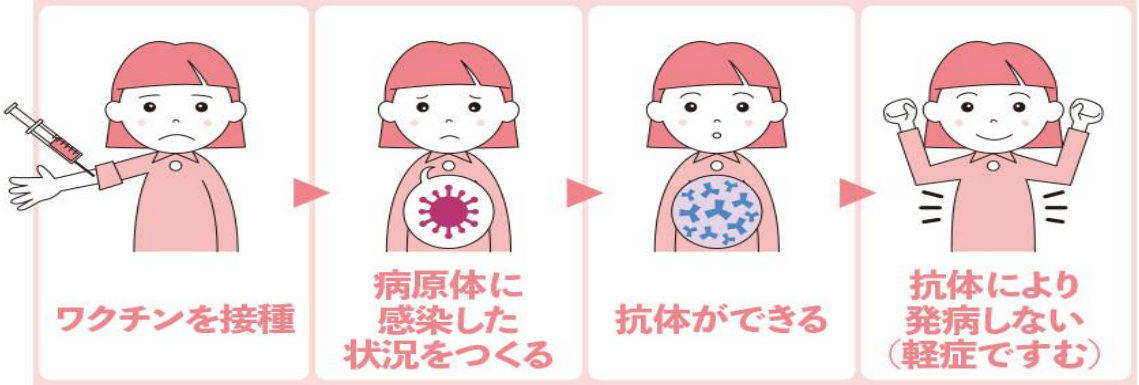
■副作用について

予防接種によって免疫が作られる過程で、熱が出たり、接種した部分が腫れたりするなど、副反応が一定数みられます。副反応は、安全性に実績のあるワクチンでも必ず避けることができるわけではありません。副作用の中でも、極めて頻度の低いものや、時間が経てば回復するものまで、「熱が出るのは怖い」「副作用が怖い」などと過剰に拒否してしまうと、病気を予防する機会を逃してしまう可能性があります。予防接種は、病気の治療と違い元気なときに接種を受けなければならない上、得られる効果は、接種することで病気にかかりにくくなるというものです。何事もなく日常を過ごせることから、予防接種で得られた利益は実感しにくいです。だからこそ感覚で必要性を判断するのではなく、必要な知識を事前に得て、理解しておくことが大切です。



■予防接種が効く仕組み

感染症にかかると、体の中でウイルスや細菌などの病原体に対する免疫が作られ、次に同じ病原体が体内に入ってきた際にすぐに攻撃するしくみができあがります。予防接種は、このような免疫のしくみを利用して、病原体が体内に入ってきても病気になりにくい状態をあらかじめ作っておくものです。



■大人が検討したい予防接種

多くの予防接種は、病気にかかると重症化しやすい小さな子どものうちに受けることが多いですが、大人になってから検討すべき予防接種もあります。

・**65 歳以上の場合**（基礎疾患によっては 60 歳以上も）…インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの接種を、費用の一部に公費を使って受けられます。

・**妊婦の場合**…妊婦も免疫機能が低下し、感染症の発症時には重症化しやすくなるため、インフルエンザワクチンの接種が推奨されます。また、麻疹、風疹、水痘などは、妊娠中に感染することでお腹の中の赤ちゃんに悪影響が生じるため予防が大切ですが、妊娠中は弱毒生ワクチンを接種できないため、妊娠する前に接種を受けておく必要があります。

・**1962 年 4 月 2 日～1979 年 4 月 1 日生まれの男性**…風疹ワクチンは、1994 年以前には、中学生女子にしか接種されていませんでした。そのため、一部世代の男性は、風疹の抗体を持っていない人の割合が高くなっています。対象期間の男性は無料で抗体検査と必要な場合にワクチン接種が受けられるクーポン券が配布されています(2022 年 3 月までの予定)。

大人に必要な予防接種もあります。予防接種に関する正しい知識を身につけて、自分自身や周りの人たちの健康に役立てましょう。